

Economic Indicators

発表日: 2022年12月28日(水)

鉱工業生産(2022年11月)

～3カ月連続の低下、需要減少の影響も窺える～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
21年	1月	1.9	▲5.3	1.9	▲5.2	▲1.3	▲10.3	▲4.0	▲4.0	7.6	▲0.2	0.0	▲5.7
	2月	▲0.1	▲2.6	▲0.6	▲3.7	▲0.3	▲9.4	0.6	▲3.8	0.4	6.3	▲1.7	▲5.9
	3月	1.7	3.6	0.7	3.5	0.0	▲10.0	▲1.3	▲12.5	▲3.2	8.3	0.6	1.2
	4月	1.1	15.6	1.3	15.8	0.2	▲9.9	▲0.6	▲22.0	8.9	19.2	▲0.5	15.1
	5月	▲6.2	21.0	▲2.6	21.2	▲0.5	▲8.9	1.2	▲27.8	▲1.6	22.7	▲4.5	11.0
	6月	7.2	22.9	3.2	18.9	1.6	▲5.1	▲0.2	▲21.6	3.3	22.2	2.9	9.4
	7月	▲0.8	11.1	▲0.4	10.7	▲0.3	▲4.7	1.6	▲13.3	▲0.7	19.2	0.5	0.4
	8月	▲1.9	8.4	▲2.6	6.7	▲0.1	▲3.8	1.9	▲10.0	▲1.6	24.8	▲5.2	▲5.4
	9月	▲6.5	▲2.5	▲7.2	▲4.6	2.7	0.4	4.5	0.3	▲1.4	15.1	▲13.4	▲20.0
	10月	2.1	▲4.3	2.5	▲5.9	0.5	2.1	▲1.2	4.8	▲0.9	8.8	10.9	▲14.6
	11月	5.0	4.8	5.4	3.3	1.4	5.5	▲1.5	0.5	0.6	9.9	8.9	▲1.6
	12月	0.2	2.2	0.2	2.5	0.1	4.9	▲0.3	1.2	1.5	9.7	3.4	▲0.7
22年	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.7	9.6	▲2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲3.5	13.4	▲4.2	19.8
	10月	▲3.2	3.0	▲1.7	4.1	▲0.5	5.0	▲4.5	2.8	▲4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	▲0.1	▲1.3	▲0.5	▲0.9	0.3	3.8	3.3	6.9	▲3.5	5.1	1.0	0.3
	12月	2.8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
23年	1月	▲0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注)22年12月、23年1月は、製造工業生産予測調査の数値

○生産は3カ月連続の減少、10-12月期は大幅減産見込み

経済産業省から公表された22年11月の鉱工業生産は前月比▲0.1%と、概ね事前の市場予想(同▲0.3%)通りの結果となった。これで3ヶ月連続の低下である。10-11月平均は7-9月期対比で▲3.3%pt下回っており、先行きの予測指数も弱いことから10-12月期は大幅減産が確実である。経産省による生産の基調判断も「弱含み」に引き下げられた。

11月の生産を業種別に見ると、汎用・業務用機械が前月比▲8.5%(寄与度▲0.60%pt)、生産用機械が前月比▲3.9%(寄与度▲0.33%pt)と押し下げている。7-9月期の大幅増産を牽引した資本財関連での減少が目立つ。後述の通り、これらは7-9月期からの反動減といった側面に加えて、国内外からの需要減少の影響があることも窺える。1-3月期も海外経済の減速により楽観視できない状況であり、今後の鉱工業生産は減少傾向が明確化すると予想している。

○11月は需要減少の影響も窺える内容

同時に公表された製造工業予測指数は、12月が前月比+2.8%、23年1月が同▲0.6%となった。12月はプラスとなっているが、予測指数には上振れバイアスがあることに注意が必要である。こうした

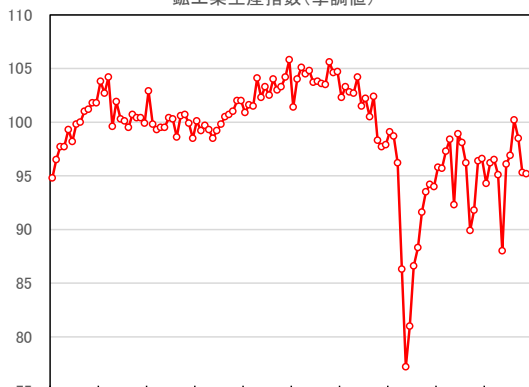
バイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、12月は前月比▲0.6%とマイナスになっている。仮に12月が経産省補正值通りの結果となれば、10-12月期は前期比▲3.5%となる。10-12月期は2四半期ぶりの減産が確実だろう。

注意したいのが、生産用機械の動向である。生産用機械は、中国のロックダウンが解除された6月以降ははっきりと上振れていたが、9月以降に急減少に転じている。9月、10月の減少に関しては、それまでの上昇からの反動減と評価できるものだった。しかし、11月に関しては、3カ月連続の大幅減少によって6月を下回る水準にまで切り下げている。出荷指数も3カ月連続の減少、在庫指数も高止まりしていること等を鑑みると、一時からの反動減だけでなく、海外における需要そのものの減少もあると窺える。予測指数によると、生産用機械は12月に+5.9%の増産を見込んでおり、予測指数全体を牽引しているが、直近の実現率は10月▲15.3%、11月▲7.8%と大幅なマイナスが続いていることから12月も下振れる可能性が高いだろう。

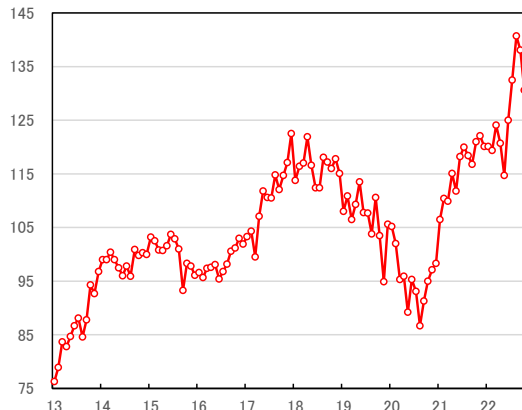
また、電子部品・デバイスもこのところははっきりと下振れている。電子部品・デバイスは7-9月期に前期比▲7.8%と2四半期連続の大幅減産となった後、10-11月も7-9月期をさらに▲5.8pt下回る水準だ。コロナ禍以降堅調だった半導体等のIT関連需要の一巡や海外需要の弱まりを背景に急ブレーキが掛かっており、今後も生産の足を引っ張る可能性が高い。

このように10-12月期は、大幅増産となった7-9月期からの反動減も面も大きいものの、それだけに留まらず海外を中心とした需要減少の影響が窺える内容となっている。1-3月期は、急ピッチな金融引き締めを行ってきた欧米諸国を中心に世界経済の下振れが必至の情勢であり、これまで以上に生産に逆風が吹く可能性が高い。先行きの生産は減少傾向が続く可能性が高いと予想する。

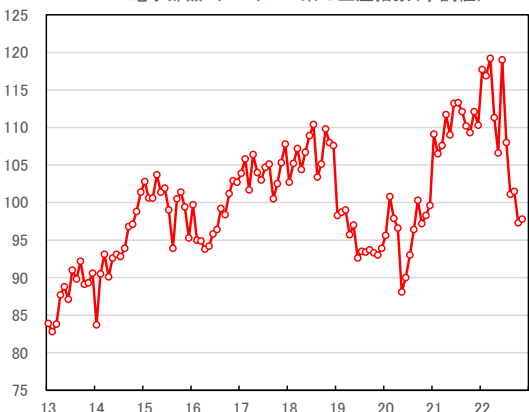
(15年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



(15年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。